

写真1 / 現在の中野区役所は1968年竣工



写真2 / 奥のドコモビルも再開発エリア内



電業足報 電業耳報 NO.8

中野サンプラザも中野ブロードウエイも大きく変貌する!? 中野駅周辺でも進みつつある「100年に1度」の再開発①

取材・構成 / 本誌編集部

☆いちばん進んでいる中野区4丁目地区の開発

今週号で8回目を迎えた《電業足報・電業耳報》。今週のテーマは渋谷駅周辺と同様、「100年に1度」とされる大規模再開発事業が進みつつある、JR中野駅（および地下鉄東西線・中野駅）周辺の現況レポートです。

中野駅前といえば中野サンプラザと中野ブロードウェイなどが長年、ランドマークの役割を果たし、サブカルチャーの聖地ともいわれてきました。しかし、その図式は数年以内になんか変化していきそうです。

*

JR中野駅（および地下鉄・中野駅も含まれるが、以下、JR中野駅で統一）周辺の再開発エリアは、4つの地区に区分することができる。まずJR中野駅の駅舎を中心点とする、漢字の「田」の字を思い浮かべていただけ



写真3 / 今は何もない北口広場だが……

ると分かりやすい。

「田」の字は「口」の中に「十字」が入っている訳だが、「十字」の横棒をJR中央線（および総武線）の線路とすれば、縦棒は線路の下を南北に横切る中野通りに該当する。

そして「十字」の横棒と縦棒が交わる中心点が、中野駅の駅舎ということになる。

さらにその「十字」によって、「口」の中には4つの長方形（田）ができていて、上の二つの長方形のうち、右側の長方形は「中野5丁目地区」であり、左側の長方形が「中野4丁目地区」に当たる。この2つの地区は、駅の北口側にある。

同様に「十字」により「口」の中にできている「田」の下側の長方形2つのうち、右側の長方形は「中野2丁目地区」で駅の南口側に当たる。

左側は「中野3丁目地区」で、駅の西口側に当たる。

JR中央線を中心点とする、この「中野2丁目～5丁目」の各地区（全体で約110ha）が、着手の時期はそれぞれに差があるものの、現在は全体的に再開発を推進している（あるいは、推進しようとしている）。

中でもとりわけ大きな変貌を現在進行形で見せつつあるのが、「田」の字の左上の長方形を占める地区、すなわち「中野4丁目地区」である。

中野4丁目地区には、駅前ランドマークとして有名な複合ビル「中野サンプラザ」と、隣接する「中野区

*本文、後略